

せんだいメディアテーク企画展

せんだいデザインリーグ2012 卒業設計日本一決定戦

主任学芸員 清水 有

ここで10回目を迎える全国の学生の卒業作品「せんだいデザインリーグ」を集め、日本一を決める「せんだいデザインリーグ2012 卒業設計 コンテスト」であり、また「日本一決定戦」は、建築 展覧会でもある。や都市デザインを専攻す

2011年の3月11日



東日本大震災で出展作品が被害を受けた「せんだいデザインリーグ2011」の会場=2011年3月11日

の直後から出展者と頻繁に連絡を取って状況を報告し続け、避難していたスタッフも1カ月ほどで戻り、わずかな期間で、ほとんどの作品を出展者に送り返した。

学生会議は2002

午後2時46分。後に東日本大震災と呼ばれることになった激しい揺れで、せんだいメディアテークの5階と6階に展示されていた、この年の応募作品の一部が台の上から落下して散乱し、どれが誰のものなのか見分けがつかなくなった。この年の「仙台建築アワード2002」という卒業設計コンペティションが母体となり、翌年、全国公募の「卒業設計日本一決定戦@senda

建築 切実さ問う

かなくなっていました。惨状を前に、われわれ職員はなすすべなく立ち尽くすだけだった。自己の無力さにやりきれなさを感じた。

この年の「仙台建築アワード2002」という卒業設計コンペティションが母体となり、翌年、全国公募の「卒業設計日本一決定戦@senda

困さに疑問を感じる」とも。その言葉にリアリティを感じるのは、7階の天井が崩落し、復旧に約9カ月が費やされた、せんだいメディアテークという開催場所の切実さだろうか。



震災前、学生や研究者でにぎわう「せんだいデザインリーグ2011」の会場=2011年3月6日

度で壊れてしまうものなのかと愕然(がくせん)としたのも事実。しかしその体験から本当に価値があるものは何なのかということに思いを巡らすようになった」と語る。

「今の学生の作る建築は殻に閉じこもりがち。そこから抜け出るために必要な、人の意見を聞く能力をぜひ今回の大会で磨いてほしい」とも。千年に一度という大きな災害をまたぎ、衣食住という生きる根源の一つでもある建築の切実さを訴える学生たちの目に映るものは何か、響く言葉は何か。その答えは、復活したせんだいメディアテークにあるのではないだろうか。

このコンテストの主催組織は「仙台建築都市学生会議」(以下、学生会議)である。彼らは震災

「i」が開催された。審査委員長はせんだいメディア

「以前のプレゼンテーションの華やかさに比べ、思想の切実さの貧

「せんだいデザインリーグ2012 卒業設計日本一決定戦」は、3月4日から11日まで、仙台市青葉区のせんだいメディアテークで開かれる。